

## 事前質問・意見一覧表

## 1. 被災者の生活再建

## (1) 生活支援の充実

## ● 質問

No.	内容	担当課
1	<p>施策シート：P3 No.10 個人の二重ローン問題への支援 ・相談件数、内容など状況の推移等を教えてください。</p> <p>【回答欄】 ＜相談件数＞ ・震災関連の多重債務相談 40件（H28.7.6現在） うち二重ローン関連の相談 3件（H23.3～4月受付） ＜状況＞ ・私的整理ガイドライン運営委員会による個別相談会 青森支部相談件数・・・非公表 青森支部での債務整理成立件数 1件 ・市消費生活センターでは、引き続き債務整理相談を受け付け、必要に応じ私的整理ガイドライン運営委員会等への案内を行う。</p>	くらし交通 安全課
2	<p>施策シート：P5 No.21 被災児童・生徒の就学援助 ・支給金額の決定はどのようにして行われていますか。また、援助期間はどのように設定されていますか。</p> <p>【回答欄】 支給金額は、青森県被災児童生徒就学援助事業費補助金交付要綱で定められています。 現在のところ、援助期間は中学校卒業まで認められています。</p>	学校教育課
3	<p>施策シート：P6 No.26 子どもの心のケアに関する相談 ・この事業の平成26年度・平成27年度の利用実態や対応状況を知りたい。</p> <p>【回答欄】 ＜平成26年度状況＞ ・「心のケア学習会」の開催 H26.9.3（小中野小）／H26.9.4（桔梗野小）／H26.10.30（鮫中）／H26.10.31（第三中）／H27.1.9（西園小） ・「心のケア」リーフレット：H27.3.9 アニバーサリー反応について各小・中学校へ送付 ＜平成27年度状況＞ ・「心のケア学習会」の開催 H27.5.1（新井田小）／H27.7.9（市川中）／H27.12.24（生徒指導・保健部会冬期講習会）／H28.2.16（明治小） ・「心のケア」リーフレット：H28.3.2 アニバーサリー反応について各小・中学校へ送付</p>	こども支援 センター

● 意見

No.	内容	担当課
4	<p><b>施策シート：P9 施策を取り巻く課題や論点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の状況を踏まえた支援体制については充実した対応で落ち着いてきた印象を受けます。今後は、被災者が就職状況も含めて自立した生活を送るべく支援いただくようお願いいたします。</li> </ul>	<p>健康づくり推進課</p> <p>産業労政課</p>
	<p><b>【回答欄】</b> (健康づくり推進課)</p> <p>被災者が健康な生活を送っているか、こころの問題を抱えていないか把握し、必要な支援を提供するため、関係課8課と情報交換会を実施している。健康以外の問題がある方については、関係課と情報交換をしその後の支援に活かしている。</p> <p>(産業労政課)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国の緊急雇用創出対策事業（震災対応事業）を活用し、被災求職者への就労支援に努めてきた。</li> <li>今後も、ハローワークと連携し、求職者の早期就職支援を実施してまいりたい。</li> </ul>	

**(2) 住宅確保の支援**

● 質問

No.	内容	担当課
5	<p><b>施策シート：P10 目指す姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「一時入居住宅等の提供により、・・・」の記述で、「一時」の表現があります。被災者の生活が安定することは考慮されているのでしょうか。</li> </ul>	<p>建築住宅課</p>
	<p><b>【回答欄】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>震災により住宅に被害を受けた被災者が、被災後に住宅を修理し、又は確保する際に、一時的に身を寄せる場所として市営住宅を短期間、無償で提供。</li> <li>その間、当市では災害公営住宅を建設し、一時入居期間が終わった後も、被災者の生活環境を確保するよう努めた。</li> </ul>	
6	<p><b>施策シート：P11 No.2</b></p> <p>公営住宅等の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度で支援終了の見込みのようですが、今後の支援等についてどのようにお考えですか。</li> </ul>	<p>建築住宅課</p>
	<p><b>【回答欄】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、市営住宅に一時入居している2世帯に対して、福島県に依頼された青森県の生活再建・産業復興室が、今後の居住先について意向調査を実施。</li> <li>1世帯についてはそのまま市営住宅への入居を希望しているため、一時入居から正式入居へ切り替える方向で検討している。</li> </ul>	

### (3) 雇用対策の強化

#### ● 質 問

No.	内 容	担当課
7	<p><u>施策シート：P17 No.6</u></p> <p>八戸市雇用創出戦略ビジョンの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「雇用創出戦略ビジョン」で新規事業の発掘に取り組むとありますが、ターゲットとする具体的な新規事業などはあるのでしょうか。</li> </ul>	産業労政課
	<p><b>【回答欄】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な新規事業については、ビジョンの方向性等も含めて、関係各課で構成する「八戸市雇用創出戦略ビジョン推進連絡会議」並びに、経済・労働団体等で構成する「八戸市経済・雇用連絡協議会」において検討を予定している。</li> </ul>	

#### ● 意 見

No.	内 容	担当課
8	<p><u>施策シート：P19 施策を取り巻く課題や論点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケートにおける現状評価はP15で1.9点の評価となっており、他が2点以上であるのに対して低い値となっています。一方では、同ページにおける月別有効求人倍率は、着実に上昇を続けており、頼もしい状況にあります。双方に食い違いがあり、日頃からの実情の情報提供が必要ではないでしょうか。</li> </ul>	産業労政課
	<p><b>【回答欄】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化や若年者等の県外流出により、求職者数が減少傾向にある中、求人数は伸びており、有効求人倍率が改善基調にある一方、求職者が希望する職に就けないといったアンマッチが生じていることから、市民感覚の実感としては評価が低いと思われるため、今後ともハローワークと連携し、求人・求職の情報提供に努めてまいりたい。</li> </ul>	

#### (4) 暮らしの安心確保

##### ● 質 問

No.	内 容	担当課
9	<p><b>意見への対応状況：P5 No.11</b></p> <p>・近くには商業施設などが建ち続けているが、現在の渋滞の状況や救急対応への影響などは出ていないのか知りたい。</p>	総合保健センター推進室
	<p><b>【回答欄】</b></p> <p>（仮称）八戸市総合保健センター建設予定地の周辺道路の、現在の交通状況については調査しておりませんが、基本設計及び実施設計業務におきまして、渋滞や緊急車両への影響がでないよう、道路からの出入口の位置や数等について、関係機関と協議してまいります。</p>	
10	<p><b>施策シート：P24 No.24</b></p> <p>農林水産物の放射性物質濃度の測定</p> <p>・その後、農林水産物の放射線物質濃度の定期的測定は実施されていますか。</p>	農業経営振興センター  農林畜産課  水産事務所
	<p><b>【回答欄】</b></p> <p>（農業経営振興センター）</p> <p>農産物の放射性物質検査は、当初より青森県が主体となって実施しており現在も継続測定。</p> <p>結果については随時、市ホームページ（H23.7～）及びコミュニティラジオ局BeFM内番組（H24.12～）にて公表。</p> <p>（農林畜産課）</p> <p>市では、県が放射性物質検査を行った市内産牛肉の検査結果を毎週市のホームページ上に転載し、あわせてBeFMの番組内で紹介しています。</p> <p>（水産事務所）</p> <p>・水産物の放射性物質調査</p> <p>市では、マダラとサバについて市場での販売前に検査を実施しております。</p> <p>平成27年度実績：マダラ219件、サバ62件</p> <p>県・国では、平成27年度は38品目、735件の検査を実施しており、いずれも基準値（放射性セシウム：1kgあたり100ベクレル）を大きく下回っております。</p>	

## 4. 防災力の強化

### (1) 防災体制の強化

#### ● 質 問

No.	内 容	担当課
11	<b>施策シート：P5 No.8</b> 事業所における防災訓練の充実 ・事業所における防災訓練実施率はあまり高くないと思います。全国レベルではどの程度なのでしょう。 ・防災研修の実施や防災計画の作成指導と併せて防災訓練実施率向上のための施策も必要だと思います。	防災危機管理課
	<b>【回答欄】</b> 防災訓練の実施状況について関係機関に問い合わせたが、防災訓練の実施率は確認することができませんでした。これまでも防災研修への講師派遣や防災計画の作成支援など実施してきているが、実施団体が更に増えていくよう広報等を利用し呼びかけを行っていく。	
12	<b>施策シート：P13 No.27</b> 小・中学校における防災教育の推進 ・中高校生・大学生が避難所でボランティア活動を行うことが十分に予想されますが、防災教育には災害ボランティアに関わる内容は含まれていますか。	教育指導課
	<b>【回答欄】</b> 八戸市内の公立小・中学校に在籍する児童生徒に配付している防災ノートの中学生版には、避難所での生活に関する内容を取り入れている。災害時、地域の一員としてできることを考える内容となっている。	

#### ● 意 見

No.	内 容	担当課
13	<b>意見への対応状況：P2 No.1</b> ・災害時における情報伝達に関して、先だつての北海道地震の折に、まちの駅における20人ほどの来訪者の緊急ベルがけたたましく鳴り、ある意味の恐怖感を誰もが感じたことがあった。半面これだけの早い情報が入ることへの安心も受けた。2年前に比べると着実に対応が進んでいることを体感した。	防災危機管理課
	<b>【回答欄】</b> 引き続き、ほっとスルメール等での災害時における情報を速やかに配信できるよう努めていく。	
14	<b>意見への対応状況：P4 No.7</b> ・中小規模事業者におけるBCP策定状況を把握するとともに、更に策定の促進を図っていく必要があると思います。	商工課
	<b>【回答欄】</b> 八戸商工会議所が今年2月に実施した調査によると、回答のあった事業者のうち、BCP策定済の事業者は全体の16%、今後策定する予定の事業者は24%という結果でした。BCP策定に向けた普及・啓発等を引き続き実施してまいります。	

No.	内 容	担当課
15	<p><b>意見への対応状況：P4 No.11</b></p> <p>・各店舗・施設での訓練が実施されていることはときどき目にするが、中心街全体やイベントの折などの対策は足りていないように思う。</p>	防災危機管理課
	<p><b>【回答欄】</b></p> <p>それぞれの対策については、地域の団体やイベント各主催者において計画・実施していただいております。意見等を求められた場合には助言しており、引き続き、できる限り支援していく。</p>	
16	<p><b>意見への対応状況：P5 No.12</b></p> <p>・携帯を持つ市民、特に携帯を持つ高齢者が間違いなく情報を得る手段を講じる意識が高まっていると実感しているが、これでよいとは決して思わない。まだまだ方法を検討していくべきと思う。</p>	防災危機管理課
	<p><b>【回答欄】</b></p> <p>ほっとスルメールの登録については、「広報はちのへ」への掲載やチラシ配布等による周知を継続していく。また、情報取得手段の更なる取組を研究していく。</p>	
17	<p><b>施策シート：P5 No.10</b></p> <p>津波に対応した避難所・避難路の再検討</p> <p>・指定避難所と緊急避難所・一時避難所・広域避難所の違いを把握しつつ、災害発生時の施設利用協力を進めていただきたい。</p>	防災危機管理課
	<p><b>【回答欄】</b></p> <p>災害発生時の避難所等として施設利用の協力が得られるよう、施設管理者との協議を行っていく。</p>	
18	<p><b>施策シート：P6 No.11</b></p> <p>津波避難ビルの指定・整備検討</p> <p>・津波避難タワーが各地に建設されていますが、緊急時に備え子どもや外国人にも見てわかるような色や表示、多国籍に対応した表記などデザインの工夫が必要と考えます。</p>	防災危機管理課
	<p><b>【回答欄】</b></p> <p>津波避難ビルの表示については、地域住民、旅行者、観光客、外国人に対して容易に分かりうる情報伝達手段として、日本工業規格（JIS）及び国際規格（ISO）に図記号が定められている。このため、当市の津波避難タワー及び全ての津波避難ビルの外観には、視認しやすい場所にこの図記号による標識を設置している。</p>	
19	<p><b>施策シート：P11 No.24</b></p> <p>災害時における広報体制の検証・強化</p> <p>・中心街では各町内で広報媒体を持っている。災害情報を流す手段としてそれらの広報媒体との連携を強化することにより、道路を歩いている市民へ密に情報が伝わるのではと感じる。</p>	広報統計課  防災危機管理課
	<p><b>【回答欄】</b></p> <p>各町内で持っている広報媒体を調査し、災害情報伝達手段の一つとして検討していく。</p>	



No.	内 容	担当課
20	<p><b>施策シート：P15 施策を取り巻く課題や論点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケートにおける現状評価はP1において2.6点のように高い評価となっています。これらは、積極的な施策等を通じたことによる市民意識の向上が反映したものであると思われま。被災後の復興モデル都市としての特徴を遺憾なく発揮すべく施策を施していただきたい。</li> </ul> <p><b>【回答欄】</b> 市民意識の向上は復興の原動力となるものと理解している。市民一人ひとりが災害に対する備えの意識を持ち、自発的な防災活動が展開されるように取り組んでいく。</p>	防災危機管理課
21	<p><b>施策シート：P15 施策を取り巻く課題や論点</b></p> <p><b>市民一人ひとりの防災意識の醸成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会活動や老人クラブなどに参加しないひとり暮らしの高齢者の意識付けが更に必要になってくると思われま。交通事故防止、特殊詐欺防止活動などの時も、活動やイベントに出てこない高齢者への情報の周知とどう参加していただくかが課題になっています。防災活動についても同じことと思いま。</li> <li>・例えば、ひとり暮らしの高齢者限定の企画、「蕪嶋神社参拝ツアー」、「はっち見学ツアー」など、ただ単純に外に出ることからはじめる企画をしてみるのも良いのではないのでしょうか。もしかしたら、町内の方々とかかわりを遠慮している方が、一人で気楽だからと参加し社会にかかわるきっかけになるかもしれません。かなり難しいとは承知しております。</li> </ul> <p><b>【回答欄】</b> (防災危機管理課) 防災活動については、それぞれの企画の中で、その内容に応じた意識付けの方法を工夫しながら支援していく。 (高齢福祉課) 防災の観点からも、ひとり暮らし高齢者には、地域包括支援センターサブセンターや在宅介護支援センターが自宅を訪問し、その方に応じた個別支援を行っております。また、ひとり暮らし高齢者等を対象に、集いの場として、小地域でのほっとサロンを開催しております。 こういった機会を捉え、ひとり暮らし高齢者が地域との交流を図りながら、防災も含め必要な情報を得ることができるよう努めてまいります。</p>	防災危機管理課 高齢福祉課
22	<p><b>施策シート：P15 施策を取り巻く課題や論点</b></p> <p><b>市民一人ひとりの防災意識の醸成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民一人ひとりの防災意識を強化していくためには、まず、災害を忘れさせない、忘れない気持ちを持たせるための広報活動を継続して実施していくことが大切と思う。</li> </ul> <p><b>【回答欄】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波防災の日（11/5）と東日本大震災（3/11）に合わせて、各1週間程度、写真展を開催しており、今後も継続していく予定。</li> <li>・「広報はちのへ」へ年4回、防災に関する記事（2回は特集記事）を掲載しており、今後も継続していく予定。</li> <li>・防災の日（9/1）に合わせて、新聞に特集記事を掲載しており、今後も継続していく予定。</li> <li>・市内商業施設で開催している防災のイベントに参加し、クイズラリーや非常食の試食等を行い、市民の防災への意識向上に努めており、今後も参加を継続していく予定。</li> </ul>	防災危機管理課

## (2) 水・エネルギー対策の充実

### ● 質 問

No.	内 容	担当課
23	<p><b>施策シート：P18 No.7</b>  <b>節電・省エネルギーの推進</b>            ・省エネルギーセミナー実施について、平日の中心街で実施する理由は何ですか。広く市民に呼びかけるのであれば、休日のショッピングセンターなど集客が見込まれる場所で行うのが効果的だと考えます。</p>	環境政策課
	<p><b>【回答欄】</b>            ・セミナーは、省エネの重要性を理解する機会を提供する目的で実施。            ・地球温暖化対策に向け、なるべく公共交通機関を利用していただく趣旨で主にはつちで開催。            ・受講者：H24年度（開始）26名→H27年度55名            ごみ減量セミナーも併せて開催したこと等により増加。            ・さらなる受講者増に向けて、集客の見込める場所や休日の開催等について検討していく。</p>	
24	<p><b>施策シート：P21 施策を取り巻く課題や論点</b>            ・エネルギーや水の対策は出ているが、災害時の食料の供給体制の部分はどこに入るのか。この項目が必要なのではないかと感じる。</p>	防災危機管理課
	<p><b>【回答欄】</b>            ・「4-(1)-③ No.13 備蓄品目及び備蓄数の検証・充実」において、八戸市備蓄計画を策定し食料備蓄の考え方を示す。            ・「4-(1)-③ No.15 物資供給等災害時における支援協力協定の検証・改定」において、食料供給に係る市内業者との協定を締結。</p>	

### ● 意 見

No.	内 容	担当課
25	<p><b>施策シート：P19 No.10</b>  <b>災害時における公共交通の安定供給に関する検討</b>            ・現在、田向地区とニュータウンをつなぐバス幹線が無いようです。災害時の燃料確保困難や医療受診等に備え、平時から公共交通の安定を図る必要があると考えます。</p>	都市政策課
	<p><b>【回答欄】</b>            田向地区とニュータウンを路線バスで移動する場合、中心街で乗継ぐことで接続できるよう設定されております。なお、路線の新設については、各バス事業者が判断することとなりますが、新規ルートを設定する際はまず収支の問題は避けられません。また、慢性的な運転士不足の問題もあり、各バス事業者からは、この区間の路線新設は困難と伺っております。</p>	



### (3) 災害に強い地域づくり

#### ● 質 問

No.	内 容	担当課
26	<p><b>施策シート：P24 No.3</b>  <b>災害時要援護者支援事業の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>救急医療情報キットの配布と家庭での保存はどのようなになっていますか。取扱いは市内共通でしょうか。</li> </ul> <p><b>【回答欄】</b>            災害時要援護者名簿登録者で当該キットを希望する方へ配布しており、家庭においては、付属のマグネットフックにかけ冷蔵庫等の見やすい場所へ保管するようお願いしております。</p> <p>取扱いについては市内で統一し、八戸消防、民生委員等にも取扱いをお知らせしております。</p>	福祉政策課 高齢福祉課
27	<p><b>施策シート：P24 No.3</b>  <b>災害時要援護者支援事業の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時要援護者登録者数のひとり暮らし高齢者について、高齢者の年齢は何歳以上を指すのでしょうか。</li> <li>また、登録しているひとり暮らし高齢者の数は、町内会や民生委員、福祉政策課が把握している数ですか。一般の独居高齢者は含まれていないのでしょうか。</li> </ul> <p><b>【回答欄】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時要援護者支援事業において、ひとり暮らしの高齢者の定義は、身体的な状態により自力での避難が困難な方で、65歳以上の生活の実態がひとり暮らしの方です。</li> <li>登録人数は、市の災害時要援護者登録の呼びかけに応じて手続きした方の総数であり、独居高齢者の方であっても自力で避難が可能であることを理由に手続きをとられていない場合も多くあります。</li> <li>ひとり暮らし高齢者の情報は、民生委員及び市と協定を締結している町内会等に情報提供しています。</li> </ul>	福祉政策課